

2021 年度北海道 NPO ファンド事業報告書

0. 2021 年度の助成事業概況

21 年度は、休眠預金助成を中心に 3500 万円の助成支出となりました。

| 年度(10～9月) | 経常収入 | 支払い助成金 |
|-----------|------------|------------|
| 2015 | 178,549 | 1,040,000 |
| 2016 | 517,412 | 3,197,501 |
| 2017 | 2,649,757 | 3,795,258 |
| 2018 | 34,100,288 | 12,021,711 |
| 2019 | 9,890,089 | 14,499,000 |
| 2020 | 84,121,972 | 72,261,270 |
| 2021 | 60,695,779 | 35,497,876 |

1. 助成実績

休眠預金等活用法による助成については、別途項目立てます。

NP0の活動やニーズが多様であることから、ある程度基金数が細分化され増えるのは仕方ない面もありますが、目的を達したらすみやかに運営を終了するなど、管理業務を増大させない工夫も認識しています。

1) 越智基金・市民活動支援基金

一般公募により、道内のNP0法人・市民活動団体への助成を実施しました。今年度は、ガソリン代の高騰などを背景に移動支援を行っている団体への支援を謳いました。

応募総数 23 団体 助成決定団体 10 団体 助成総額:70 万円

2) 越智基金・市民活動支援基金 ウィズ/ポストコロナ特別枠助成およびウクライナ等国際紛争避難者支援活動特別枠助成

2022年3月に解散したNP0法人ほっとステーションひだまり様の寄付により作成されました。

<特別枠概要>

寄付額 1844642 円 (3月末に受領済み)

事務手数料 寄付額の10% 184464 円

助成額 1660178 円

「ウクライナ等国際紛争避難者支援活動特別枠」 83万円178円

「ウィズ/ポストコロナの市民活動特別枠」83万円

<初回助成実績>

ウィズ/ポストコロナ特別枠助成 申請7、採択7 助成総額70万円

ウクライナ等国際紛争避難者支援活動特別枠助成 申請1 採択1 助成総額30万円

22年11月12日理事会にて、およそ60万円が積み残される見込みですが、寄付者への報告をし、札幌市内の国際系団体への再度のヒアリングなどをし、来年度に再公募する方針。特に申請ゼロになった国際避難者支援の状況を調べることとなりました。

2) 北海道いぶり東部地震及び台風21号北海道内被災地支援基金(いぶり基金)

今年度第8回の助成を終え、基金残額が事実上ゼロとなりました。寄付募集を中止し、以後は「北海道災害復興支援基金」がその役割を引き継ぐこととなります。

いぶり基金は、北海道いぶり東部地震及び台風21号北海道内被災地における支援活動を支えるための基金です。

(特別助成枠)

基金残額201万円。本年度は助成ありませんでした。北海道NPOサポートセンターと意見交換をしながら中長期的観点による助成を目指します。

3) まちのプロジェクト基金

組織診断+クラウドファンディングを特徴にした、組織力向上を意図した新しい助成プログラムです。助成を受けて実施した2期の実績を検討して3期目の実施を目指しています。

4) コープ2018年北海道地震ボランティア応援基金

北海道生協連さまより、胆振東部地震被災地におけるNPO・ボランティア団体による支援活動に対する助成を目的に造成された冠基金です。

基金残額は、選定委員会における「成果報告会や被災地活動の重要性を伝えてもらうような活動に当ててもらいたい」という意見に沿って、22年10月における北の国災害サポートチームさまとの共催フォーラムに活用しました。

5) 厚真町子ども応援基金

匿名希望者様により造成された、胆振東部地震被災地である厚真町の子どもを支援する活動に助成する基金です。助成団体を指定する助成事業であり公募はしませんでした。実施団体からは年度ごとに事業計画を出していただき、助成金を拠出します。

21年度は、厚真町滞在プログラムを実施しました。

助成額65万円、助成予定総額500万円

6) 北海道災害復興支援基金

胆振東部地震の被災地支援助成の教訓を受けて造成された常設の基金です。21年度は助成を行いませんでした。

7) 小林董信基金（新規造成）

当ファンドの連携団体である北海道 NPO サポートセンター前事務局長であり、NPO 法成立時から北海道の NPO の発展に大きな役割を果たされた故小林董信さんを偲び、その功績を後世に伝えるための基金を造成しました。22年3月に北海道 NPO サポートセンターによって開催された「偲ぶ会」をきっかけとして、ゆかりの深い有志の方々を中心に、基金の造成に至りました。

この基金は、北海道 NPO サポートセンターと当ファンドがプロジェクトチームをつくり運営されます。

小林氏が実践されていた人を育て応援することを目指し、総額 1000 万円を 3 年間にわたり助成します。

2. 個人や団体等からの基金の原資を増やす下記の活動を行いました。

1) 各基金の寄付額は以下の通りです。

| 基金名 | 金額 [円] | 備考 |
|---------------------------------|------------|---|
| 小林董信基金 | 11,510,051 | 21年度に北海道NPOサポートセンターにより造成されました。人を育て応援することを目的とします。 |
| 越智基金 | 0 | 寄付受付を終了し、市民活動支援基金に移行します。 |
| 北のNPO基金 【市民活動支援基金】 | 6,060 | 越智基金の後継と位置付けられる、市民活動向け・使途限定なし・少額助成を意図した基金です。 |
| 市民活動支援基金特別枠 | 1,844,642 | NPO 法人ほっとステーションひだまり様の寄付により造成されました。ポストコロナの市民活動と、国際紛争からの避難者支援活動に対して助成します。 |
| コープ2018年 北海道地震ボランティア 応援基金 | 46,475 | 北海道生協連様により、胆振東部地震被災地の活動を支援するために造成された冠基金です。総額 900 万円、寄付募集はしません。助成金の一部返還が 1 件ありました。 |
| いぶり基金 | 0 円 | 胆振東部地震被災地における NPO 等支援活動のために造成されました。寄付募集は 2020 年度までで終了しました。 |

| | | |
|-----------------|--------------|--|
| いぶり基金特別 枠 | 0 | バイナンス様の寄付により胆振東部地震被災地の中長期的支援のために造成されました。総額 500 万円、寄付募集はしません。 |
| 厚真町子ども応 援基金 | 0 | 匿名様より、胆振東部地震被災地で活動する団体を指定した冠基金です。総額 500 万円、寄付募集はしません。 |
| まちのプロジェクト基金 | 0 円 | 2021 年以降第 2 期寄付集めの予定 |
| 北海道災害復興 支援基金 | 156,028 円 | いぶり基金の後継と位置付けられる、平時から災害に備え、支援団体の活動を支える基金。Yahoo! ネット募金に登録。 |
| ハンドくんファン ド | 112,863 円 | 北の NPO 基金の運営自体を支援していただくために造成された基金です。Yahoo! ネット募金登録中。 |
| 合計 | 13,676,119 円 | |

3. 北のNPO基金の活動

■小林基金の造成をきっかけとして、北の NPO 基金の規約を見直しました。個人への助成を明記したことが主な変更点です。

■北の NPO 基金の専用サイトの運営のほか、北海道災害復興支援基金、いぞう寄付の窓口のサイトを運営しています。月あたりのページビューは北の NPO 基金で 700 あまりです。

SNS は、ツイッターが 170 フォロワー、フェイスブックは北海道 NPO サポートセンターと共用しておりおよそ 700 いいね、北海道災害復興支援基金としてのツイッターがおよそ 50 フォロワー、フェイスブックいいねが 150 ほどです。

昨年から引き続き Yahoo! ネット募金に北海道 NPO ファンドの運営支援をしていただく「ハンド君ファンド」、また、北海道災害復興支援基金に登録しています。

4. 認定 NPO 法人北海道 NPO ファンドとしての活動

2021 年度は、他分野の中間支援との連携が進みました。

1) 北の国災害サポートチームとの連携

「災害時助成フローを作成しました」

北海道の災害支援団体の中間支援を行う「北の国災害サポートチーム」の協力で、災害時の緊急助成のフローを作成しました。

また、22 年 10 月の共催フォーラム「これからの災害支援考える北海道フォーラム～地域特性を踏まえた災害支援の構築を目指して」に向けて協働しました。当ファンドは、コープ 2018 年北海道地震ボランティア応援基金などの 3 年間の胆振東部地震被災地支援助成の実績を発表する機会をいただきました。

2) 北海道 NPO サポートセンターとの連携

「小林董信基金の造成」

北海道 NPO サポートセンターと当ファンドでプロジェクトチームをつくり、NPO の発展に多大な貢献をされた故小林氏の功績を後世に伝えるための基金を造成しました。同時にホームページ「小林董信アーカイブ」を公開、助成情報だけでなく氏の足跡を集め公開しています。

「社会課題解決型 CROWDFUNDING 調査研究事業」

大学生がクラウドファンディングに調査し、発表会にて研究成果を発表します。今後の NPO・市民活動団体等がクラウドファンディングに挑戦していく際の知見を共有していくため、3 人の大学生が伴走支援を受けながらおよそ 6 か月の調査研究を行いました。

「非営利法人研究学会北海道部会他の合同部会・研究報告会にて話題提供」

北海道 NPO サポートセンターの紹介により、2022 年度 非営利法人研究学会北海道部会・国際公会計学会北海道部会・北日本会計研究会の合同部会・研究報告会において当会理事(高山)が、話題提供を行いました。テーマは、休眠預金活用等制度と北海道の活動事例です。

公益社団法人 非営利法人研究学会

<https://www.npobp.or.jp/>

3) 休眠預金活用に関わる活動

- ・ 一般財団法人日本民間公益活動連携機構の「新型コロナウイルス対応緊急支援助成」の資金分配団体として「北海道リスタート事業～社会的居場所を失った人に新たなつながりを」を実施。実行団体の活動は 22 年 3 月までに終了しており、精算作業中です。

2020 年 7 月に、休眠預金の民間公益活動への活用を管理する一般財団法人日本民間公益活動連携機構の「新型コロナウイルス対応緊急支援助成」に内定、8 月から公募開始しました。北海道 NPO サポートセンター、北海道総合研究調査会との連携事業です。

合計 11 団体におよそ 5000 万円を助成。単年度事業です。

- ・ 休眠預金助成の 2020 年度一般枠資金分配団体として活動しています
コープさっぽろ、北海道 NPO サポートセンターとの連携により、総額 5000 万円程度、北海道内の 3 団体への助成を申請し、日本民間公益活動連携機構に採択されました。2024 年初頭までの事業になります。

<採択された団体>

NPO 法人いきたす

NPO 法人のこたべ

一般社団法人十勝うらほろ樂舎

- ・ 休眠預金助成の 2021 年度一般枠資金分配団体として活動しています
コープさっぽろ、北海道 NPO サポートセンターとの連携により、小中学生年代を対象とした体験・機会格差の是正に取り組む事業を実施しています。総額 6000 万円

(ア)株式会社あしたの寺子屋「地方の子どもの選択格差を解消するモデルの構築～第 3 の居場所と多世代交流プログラムの相乗効果による地域教育エコシステムの構築」事業

(イ)新冠町商工会「地方情報不足解消、体験プログラムを通じた子ども非認知能力向上～地方人材流出を改める魅力ある地方教育創出とふるさと愛着度向上」事業

(ウ)一般社団法人かやぶきの家まねきや「かやぶきの家と縄文畑の多世代交流活動事業～「冒険あそび暮らしの地域コミュニティづくり」事業

・休眠預金助成の2022年度一般枠資金分配団体に6月に申請、内定しました。助成総額は6000万円程度を予定しています。

5) 新型コロナウイルス感染症対策活動団体支援協議会-行政とNPOの連携枠組みに参加しています。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に対処するため、行政とまちづくり活動団体が連携し、一体となって助成の方向性を協議し、喫緊のニーズを踏まえた支援を迅速に進めることを目的に、2020年5月20日に設立。札幌市、札幌市市民活動サポートセンター、札幌チャレンジド、北海道NPOサポートセンターとともに運営メンバーとして参加。札幌市を対象としたさぽーとほっと基金助成の周知や広報などに関わっています。

6) SIMI (社会的インパクトマネジメントイニシアチブ)賛同メンバー、全国コミュニティ財団協会正会員、全国レガシーギフト協会正会員として活動しました。

・SIMI(社会的インパクトマネジメントイニシアチブ)

社会的インパクト評価や組織評価は、助成事業やSDGsとの関連で語られることが増えています。現状当会は有料のメンバーシップではなく、賛同メンバーとして関わります。

・全国コミュニティ財団協会

引き続き正会員として加盟しており、21年度は協会会長の山田氏(佐賀未来創造基金)と当会代表理事の今野佑一郎の対談がWEB公開されました。地域の資金循環を担う財団のネットワークによる情報交換、連携・協働を目指します。また、当ファンド元役員が、同協会によるヒアリングに協力し、当会役員が他地域の財団に事例紹介をするなど、目に見える活動が現れ始めました。

なお、22年~3年にかけて当ファンドが北海道東北ブロックのブロック長となりました。

・全国レガシーギフト協会

遺贈寄付の相談窓口業務を実施。9月の遺贈寄付ウィークにはコミュニティ財団と一緒に企画参加しました。当ファンドは、2022年9月20日(火)18:00~

に「遺贈寄付を受ける準備～事例を交えて(オンライン開催)」を連動企画として実施しました。

7) いぞう寄付の相談窓口業務

超高齢化社会を迎え、独り身の方や高齢の方が社会や故郷に有意義に財産を活用してほしいという相談が増えていくことが予想されます。当ファンドでは、全国レガシーギフト協会に加盟し遺贈寄付の相談窓口を開設しています。相談は2件ありました。専用サイトを開設し広報をしています。遺贈の相談だけでなく NPO 解散についての問い合わせも予想され、北海道 NPO サポートセンターとも連携しながらそれらの相談に対応します。

8) 寄付月間 2021 のアンバサダーとして活動

欲しい未来に寄付を贈ろうという趣旨で、寄付月間推進委員会により運営されている、全国的なキャンペーンです。

初めて参加した北海道 NPO ファンドは、アンバサダー賞を受賞しました。2022 年も参加する予定です。